【様式１】　　令和３年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	**学校名**	飛騨市立古川小学校		
校長名	重山　源隆	**対象学年**	全校	**人数**	４２８　人
項　　目 該当する項目に ○をつける	○	①　小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	②　県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③　ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	**心豊かにたくましく　未来を切り拓く　～自分から・自分で・自分なら～**				
活動のねらい	ふるさと飛騨古川の自然や文化・地域に貢献している方の生き方を知ることから、自分も地域の一員であり担い手であることを自覚し、地域との関わりについて考え、発信していく活動を通して、めざす資質能力である「自ら問題解決する力～自分から・自分で・自分なら」を身に付けることができる。				

活動の特色・児童生徒の変容など

１．ふるさとアドバイザー（FA）制度による地域講師・地域素材の活用

学校運営協議会が母体となり、各学年に「ふるさとアドバイザー（FA)」が配置され、学年のテーマやねらいに応じて地域講師や地域素材を紹介してもらったり、一緒に活動を考えたりしている。

１年生　テーマ「しぜんとあそぶ　しぜんであそぶ」・２年生　テーマ「まちを知る・まちの人を知る」

担任から相談を受けた **FA** が地域の説明をする講師を紹介し、町探検や季節見つけを実施した。児童は、地域の大切な神社や屋台・自然について学びを深めることができた。

【屋台の説明をしてくださる地域講師】

５年生　テーマ「古川の自然との共生」（防災）

防災士の資格をもつ **FA** がねらいに基づき関係機関との調整を行い、防災の授業を実施。得た様々な情報の中から児童が自分自身で興味をもった分野をさらに探求し、「マイ防災バックを作り、紹介する」という出口に向けて学習を進めている。

６年生　テーマ「古川の魅力発信」

【町の人々にも魅力を尋ねる６年生】

「歴史」「まちづくり」「祭り」の３つの分野から自分で学びたいものを選び、**FA** や地域講師から情報を得る。それをもとに自分の追求するテーマを決め、町に出かけ調べたりインタビューしたりして情報収集活動を実施した。

町のよさだけでなく、地域の担い手として何ができるかをまとめたプレゼンを作り、地域内外の方に発信する学習に取り組んでいる。

２．教科等横断的な視点に立った他教科との関連を図る指導計画の作成

めざす資質能力を効果的に身に付けるために、ふるさと学習と各教科・道徳科との関連を意図的計画的に仕組んだ。特に今年は、道徳科との関連を強く意識して取り組んだ。

３年生　テーマ「古川”食”自慢」社会科・道徳科との関連

畜産農家の地域講師である蒲生さんを核に、社会科「農家の仕事」・道徳科「生命の尊さ」とふるさと学習をつなぐ学習課程を組んだ。牛舎の見学や道徳での蒲生さんの命の話を同時期に行ったことにより児童の学びが深まり、よりふるさとに愛着と誇りがもてるようになった。また、蒲生さんの牛に対する思いや、仕事に対する考え方などにも触れることができた。

【牛は家族だと思って育てています】

４年生　テーマ「人にやさしい古川」（福祉）国語科・道徳科との関連

４年生は、講話や体験を通して福祉についての理解を深めている。「親切」について考えた道徳の授業では、地域講師の奈木さんから「いつも助けるばかりでなく、見守ることも親切です」と教わり、新しい価値を身に付けることができた。そして、学んだことを生かし身近な人に優しくできないかと考え、暑中見舞いを校区内のお年寄りに送った。また、校内にベルマーク収集を呼びかけ、飛騨吉城特別支援学校の皆さんが喜んでくれる物品を贈呈しようと取り組んでいる。

３．コロナ禍での飛騨吉城特別支援学校との交流

例年、特別支援学校の児童生徒が本校図書館の本を借りたり、本校特別支援学級の児童と交流したりすることを定期的に行っている。今年度は、コロナ禍で直接交流ができないため、一緒に利用しているグランドの一角にひまわりの種を蒔いて育てたり、お互いの運動会の成功を願い、開催時期に合わせてグラウンドの石拾いをしたりした。

また、これらの活動について、お互いにお礼の手紙を送り合うことで、心のつながりをもつことができた。

【今年は手紙で交流です】

４．学校運営協議会と児童会、学校職員が一体となった取り組み

（１）児童との願いの共有

本校児童会運営委員と運営協議会の皆さんが、ともに地域の課題について話し合う場を設けた。「どんな地域にしたい？」「大人も子どもも互いに挨拶を交わせる町にしたい。」「そういえば大人同士も挨拶が減っているなあ。」と、地域の課題が子どもの目線から投げかけられ、学校も地域も挨拶を頑張っていこうという動きにつながった。

また、児童会の願いを受けて、学校運営協議会が「フラワーロードづくり」を企画。運動場の端の通学路側８０ｍに渡って、ひまわりやコスモスの花を、種から育てて咲かせる活動をスタート。全児童と飛騨吉城特別支援学校の皆さんとで種まきを行い、見事に花を咲かせた。学校周辺を通行される方も、「コロナ禍に心がほっとする」と好評。花づくりを通じて地域と心が通う企画となった。

【児童と地域の方が一同に会して】

【地域の皆さんにも、喜んでもらいました　ひまわりロードとコスモスロード】

（２）学校紹介イメージビデオづくり

児童と本校を紹介するビデオづくりを企画。地域おこし協力隊によるドローン撮影も取り入れながら、児童目線での学校のよさや自慢を紹介し、編集した。また、そのビデオを、PTA の授業参観時に保護者対象に発信したり、市内のケーブルテレビや他校の校内放送でも紹介を依頼したりした。（コロナ禍で学校に来校できない方や交流ができない他校でも視聴できるように発信）

（３）地域の大人の力で子どもたちを元気づけよう、そして大人も元気をもらおう企画

「コロナ禍の子どもたちを元気にしたい！」と願い、子どもたちを楽しませる昼休み手品ショーをはじめ、読み聞かせやクラブの講師、版画やダンス、水泳等での直接指導、通学の見守りやコロナ禍でのトイレ清掃等、「できることからできる方から」をモットーに、子どもと楽しく触れ合う時間を共有した。

一緒に給食を食べよう企画は残念ながら、コロナ禍で自粛したが、地域の方がいつでも足を運んでくつろげるスペースも整備を始めている。

（４）郷土を学ぶ取り組みを体育館前フロアに掲示

古川やんちゃ学、地域の方のボランティア活動、地域の外部講師の取り組み、郷土古川の歴史を一つのフロアにまとめて掲示した。児童だけでなく、社会体育で体育館に訪れた方にも展示を見てもらうことができた。

５．児童の変容と今後の課題

学校運営協議会・ふるさとアドバイザーの活動が動き始めて２年目の今年、コロナ禍にありながら保護者・地域と学校が一体となって子どもたちを育てる体制が整いつつある。全国学力学習状況調査の結果が向上してきたのも、この取り組みの成果といえる。目指す資質能力「自ら問題解決する力～自分から・自分で・自分なら」を身に付け、ふるさと古川を愛する児童を育てるために、今後も地域とともにふるさと学習を推進していきたい。